

歴史散歩

れきさんぽ No.16

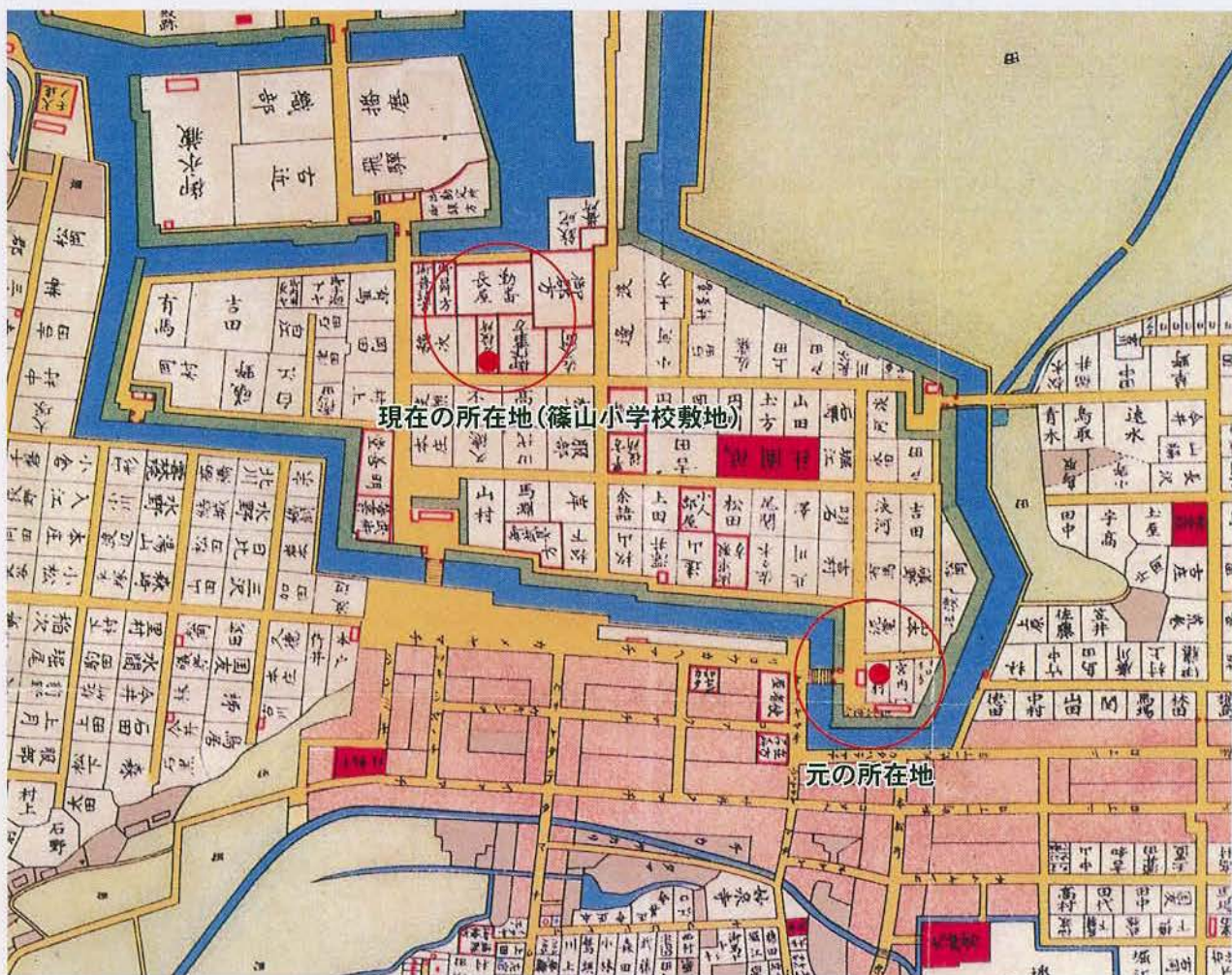
久留米市指定文化財
旧三島家長屋門

所在地 久留米市篠山町270篠山小学校内
平成13年7月23日指定

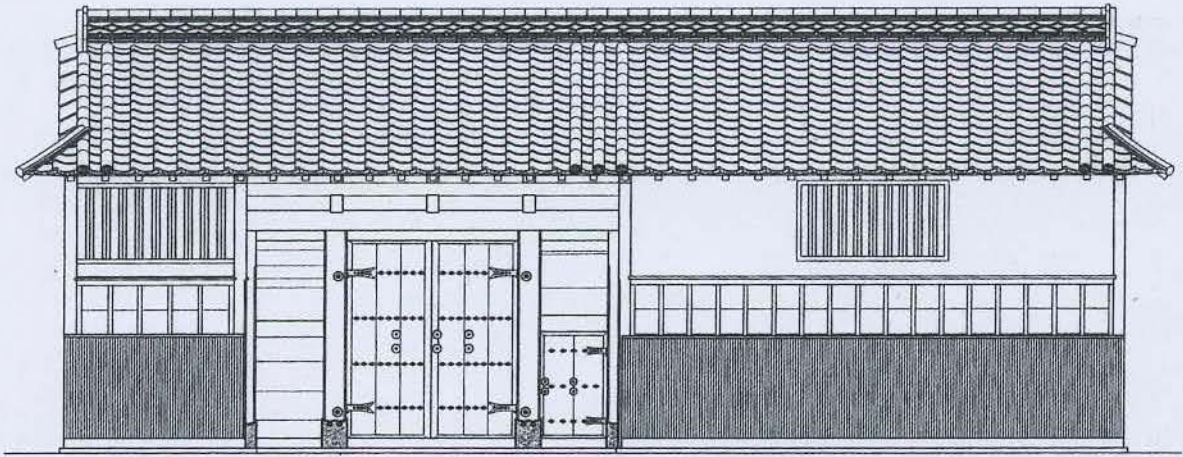
この門は久留米城の外堀に架けられた橋の一つである狩塚橋^{かりづかばし}を渡り、城内に入ったところの正面にあった梶村家の長屋門です。梶村家は300石の知行^{ちぎょう}を持つ、御馬廻組^{おうまわりぐみ}を勤めた久留米藩士の家です。

明治30年代から屋敷地と建物が三島家の所有となり、平成13年5月に久留米市に建物が寄附されるまで管理されてきたことから、旧三島家長屋門を指定名称としています。

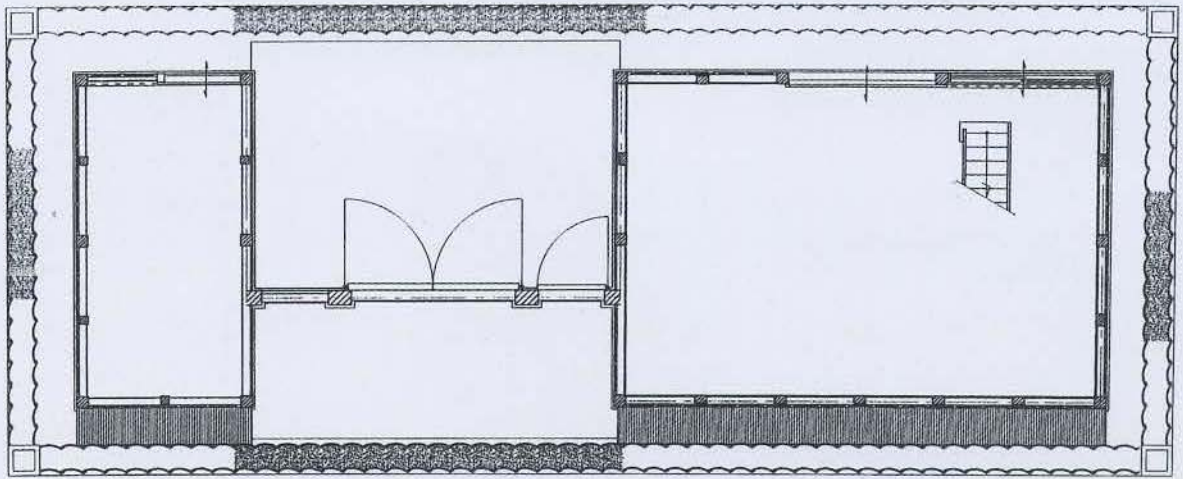
木造一層、入母屋造り、棧瓦葺の長屋門で、桁行6間、梁行2間の規模をもち、門の両側に部屋が付きます。扉筋には中央の主出入口と右側に脇扉が付きます。小屋組は和小屋で二重梁構造です。



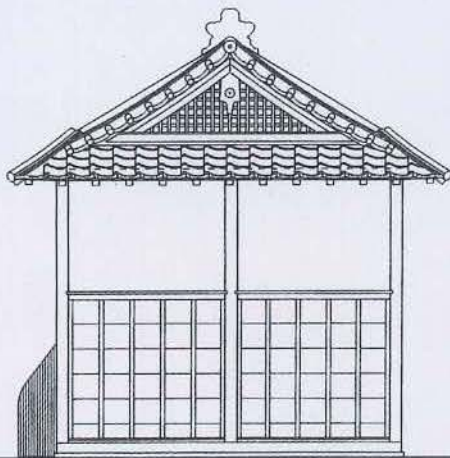
旧三島家長屋門の新旧所在地(天保年間城下図)



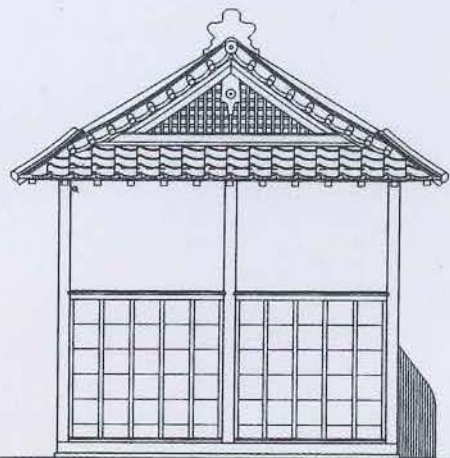
旧三島家長屋門正面図



旧三島家長屋門平面図



東立面図



西立面図



この門部分の特徴は扉上部の梁の部分で、屋根裏の牛梁をうける梁と桁をうける梁が2段に分かれ、扉上部に突出し、扉筋の4本の柱は五平柱ごへいびしらで堂々とした柱を使用しているところです。柱下部には袴板はかまいたが付き、扉には釘隠金具くぎかくしかなぐが打たれ、武家門としての意匠を表しています。

建築年代は不明でしたが、解体移築の過程で墨書が発見され、天保11(1840)年の建立で、棟梁は藩の御手大工おんてだいくであった三牧市左衛門すみがきみまさきいちざえもんであることが判明しました。

平成13年度事業で通町の三島家敷地から現在地へ移築復元されました。久留米城下町に残る武家屋敷の家構の一つであり、江戸時代の久留米の歴史を語る貴重な建造物です。

長屋門の移築

この長屋門は今回の移転で2回目の移転になります。1回目は大正6年(1917)頃櫛原へ抜ける道路が建設された時に、この三島家の敷地を南北に二分するように道路が建設されたため、北側にあったものを南側の敷地に移転させたものです。これが市民に親しまれていた三島邸の長屋門です。

今回は門前の道が狭く交通量も多く近寄りづらく、門の背後も駐車場として使われるなど、見学などの活用が難しいため、建物の寄贈を受け、篠山小学校の敷地内に移築復元したものです。

移築先を篠山小学校としたのは、この長屋門があった地区は久留米城の第4の郭である外郭の一角にあたるため、移転先を同じ歴史的な由緒を持つ外郭内を検討した結果、篠山小学校が最適と判断しました。この小学校は篠山校区の中心にあり、この建物を保存することで武家屋敷地であったこの地区の歴史を具体的に示すことができ、あわせて、学校での歴史学習などの教材として活用できることなどが主な理由です。将来はこの学校を卒業した子ども達の思い出として生き続け、校区のシンボルとして親しまれることを願っています。



屋根の復元模型

展示の内容

長屋門の部屋を展示室として利用しています。移築・復元の過程を示すパネル、篠山小学校の位置を示すパネルと、実際使用されていた瓦・釘・金具などを展示しています。また、屋根部分の復元は解体過程で判明した技法に基づいて、当初の鬼瓦・丸瓦などを用い製作されました。土壁の構造がわかる模型も展示しています。この二点の復元模型はこの移築復元工事に携われた下川實氏が製作され、寄贈をうけたものです。



移築前の三島邸の長屋門(北西から) (’98年10月30日撮影)

建物の移築復元

平成13年度の事業によって移築復元を行い、通町から現在地へ移転してきました。竣工は平成14年10月末です。建物は移転による改修や経年の腐朽に伴う数度の修理が加えられていましたが、天保11年建築当初の部材は残されていました。

しかし、平成5年頃からの白蟻被害により、かなりの部分に被害が及んだため、できるだけ旧部材の使用をおこなうとともに、解体中に部材調査を行い、新材には従来の技法を用いて復元しています。門部分は白蟻被害を受けた部位に補強材を入れ使用しています。両側の部屋部分は外板や窓などは旧部材を用いていますが、軸部などの構造材は新材で復元しています。



- ① 通町にあった当時の長屋門です。門は北側に開かれていましたが、今回の移築では南向きに復元しています。
- ② 解体中の長屋門です。屋根瓦を一枚一枚下ろしているところです。
- ③ 門扉部分の白蟻被害の様子です。この部分は白蟻駆除を行い、補強材をいれて使用しています。
- ④ 棟上げの様子です。門扉部分の復元を行っています。
- ⑤ 土壁下地となる小舞竹と間渡し竹を組んでいます。この上に壁土を塗ります。荒塗、中塗、その上に漆喰を塗り仕上げを行います。
- ⑥ 解体中に発見された墨書です。この建物が天保11年、久留米藩の御手大工であった三牧市左衛門によることが分かりました。天保11年は1840年です。



◆ 歴史散歩 No.16 ◆

平成14年10月31日

発行 久留米市教育委員会

〒830-8520

福岡県久留米市城南町15-3

教育文化部文化財保護課 0942-30-9225

久留米市埋蔵文化財センター 0942-34-4995

久留米文化財収蔵館 0942-38-6194